

大阪・高石 南海本線高架化完成記念式典・シンポ

「南海本線高架化完成記念式典・シンポジウム」(大阪府高石市主催)が5月22日、大阪府高石市の「アブラたかいし」で開催された。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令中のため無観客で実施。阪口伸六・高石市長が「長年の悲願であった南海本線の高架化が完成。多くの関係者のご尽力に感謝する」とあいさつした。また、国土交通省出身で、高石市の副市長経験のある三浦良平・富山市副市長が「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性について」をテーマに基調講演した。その後「ウィズ・ポストコロナ～大阪・関西万博 新たな時代の地方都市のありかた」と題したパネル討議があった。【谷田明美】



南海本線高架化に伴う開通式(高石市提供)

ポストコロナの都市へ

駅前活性化に尽力/鉄道高架化の手本

コーディネーター
橋爪紳也 大阪府立大学研究推進機構特別教授
パネリスト
阪口伸六 高石市長
三浦良平 富山市副市長(元高石市副市長)
和田真治 南海電気鉄道株式会社 執行役員 まちづくり創造室長
山谷佳之 関西エアポート株式会社 代表取締役社長 CEO
浅井敏彦 大阪府都市整備部交通戦略室長

橋爪 南海本線は、大阪と和歌山を結ぶアーバンライナーである一方、観光電車の役割も担ってきた。かつて沿線には、浜

山谷 コロナ禍が収束すれば旅客数は必ず回復すると信じている。格差航空会社(LCC)や情報技術(ICT)の普及で、

高石市は府内第9位の工業製品出荷額を誇り、日本屈指の臨海コンビナートを持つ。文

橋爪 大阪・関西万博の基本コンセプトは「いのち輝く未来

高石市は大阪中心部に約20分、関西国際空港に約30分の距離。大半の方が徒歩圏内で鉄道駅を利用できるコンパクトシティだ。今後は、歩行者優先の「ウォークアブル推進都市」を目指す。高石駅前広場を多文化し、イベント開催できる交流の場にするほか、同駅前の文化活

高石市は大阪中心部に約20分、関西国際空港に約30分の距離。大半の方が徒歩圏内で鉄道駅を利用できるコンパクトシティだ。今後は、歩行者優先の「ウォークアブル推進都市」を目指す。高石駅前広場を多文化し、イベント開催できる交流の場にするほか、同駅前の文化活

高石の北ヤードとして、職・住・子育て一体の都市を目指す。浅井 鉄道高架化工事(連続立体交通事業)の効果は主に三つある。踏切除去による交通渋滞や踏切事故防止▽市街地の一体化▽高架・空間の活用による利便性向上とまちの活性化である。この効果を高めるために、まちづくりは不可欠だ。

橋爪 コロナ禍以前、主に東アジアからの外国人観光客は、ユニバーサル・スタジアム・シャパンで遊ぶミニミで賑わっていた。しかし、ウィズコロナ、ポストコロナにおける観光は、密を防ぐ観点からも「屋外空間」への転換が加速した。今後は、観光客の受け皿として、長期滞在型へのシフトだ。今後は、長期滞在型へのシフトだ。今後は、長期滞在型へのシフトだ。

橋爪 交流人口を増やすには、他地域にはない個性が必要。高石市ならではの観光資源は、阪口 浜寺水路(直線2.5km、幅員200m)で、日本有数の漕艇の公道コースだ。関西選手権や西日本選手権のほか、高石商工会議所青年部の方々が毎年ドラゴンボート大会を開催。今後は漕艇・ドラゴンボートの国際大会を誘いたい。スポーツツーリズムを掲げ、マリンスポーツの拠点にしたい。

三浦 泉州地域全体をコンパクトシティと捉え、泉州9市4町が連携してまちづくりを進めていく。さらなる発展が見込める。既に関西国際空港推進協議会や関西国際空港の活性化が進められており、その延長線上で将来ビジョンを描くことが可能ではないか。まずは皆がビジョンを共有することだ。

浅井 連続立体交通事業は、これまで数多くの地域課題の解決に貢献してきた。新たな事業の具体化には膨大な事業費が必要。JR阪和線の高架化は、大阪にも地域にとっても意義がある。市長のリーダーシップのもとで勉強会からスタートすれば、府は他市町の事例紹介や技術支援など、協力を進めていく。橋爪 ポストコロナにおいて早期回復が望まれる観光インバウンド、大阪・関西万博に向け、連立事業による交通インフラを最大限に生かす必要がある。高石市は、大阪・関西の各自自治体の取り組みの一助になれば。

「選ばれる沿線」追求/交流を観光の柱に/泉州全体で連携を

橋爪 南海本線の高架化を成で、13カ所あった踏切が除去され、高石駅や羽衣駅のバリアフリー化が実現する。鉄道によって東西に分断されていた市街地も自由道路で結ばれる。

橋爪 南海本線の高架化を成で、13カ所あった踏切が除去され、高石駅や羽衣駅のバリアフリー化が実現する。鉄道によって東西に分断されていた市街地も自由道路で結ばれる。

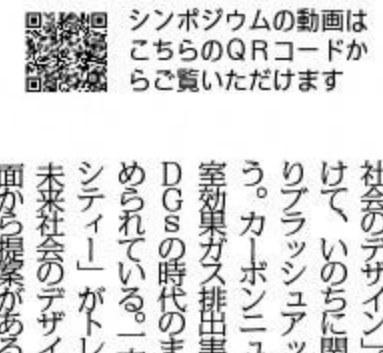
橋爪 コロナ禍以前、主に東アジアからの外国人観光客は、ユニバーサル・スタジアム・シャパンで遊ぶミニミで賑わっていた。しかし、ウィズコロナ、ポストコロナにおける観光は、密を防ぐ観点からも「屋外空間」への転換が加速した。今後は、観光客の受け皿として、長期滞在型へのシフトだ。今後は、長期滞在型へのシフトだ。

橋爪 交流人口を増やすには、他地域にはない個性が必要。高石市ならではの観光資源は、阪口 浜寺水路(直線2.5km、幅員200m)で、日本有数の漕艇の公道コースだ。関西選手権や西日本選手権のほか、高石商工会議所青年部の方々が毎年ドラゴンボート大会を開催。今後は漕艇・ドラゴンボートの国際大会を誘いたい。スポーツツーリズムを掲げ、マリンスポーツの拠点にしたい。

三浦 泉州地域全体をコンパクトシティと捉え、泉州9市4町が連携してまちづくりを進めていく。さらなる発展が見込める。既に関西国際空港推進協議会や関西国際空港の活性化が進められており、その延長線上で将来ビジョンを描くことが可能ではないか。まずは皆がビジョンを共有することだ。

浅井 連続立体交通事業は、これまで数多くの地域課題の解決に貢献してきた。新たな事業の具体化には膨大な事業費が必要。JR阪和線の高架化は、大阪にも地域にとっても意義がある。市長のリーダーシップのもとで勉強会からスタートすれば、府は他市町の事例紹介や技術支援など、協力を進めていく。橋爪 ポストコロナにおいて早期回復が望まれる観光インバウンド、大阪・関西万博に向け、連立事業による交通インフラを最大限に生かす必要がある。高石市は、大阪・関西の各自自治体の取り組みの一助になれば。

パネル討論(敬称略)



シンポジウムの動画はこちらのQRコードからご覧いただけます

基調講演 三浦良平・富山市副市長



コロナ禍以前の国のまちづくりの方向性には二つあった。一つは、都市機能を中心部に集約し、公共交通ネットワークで周辺部と結ぶ「コンパクトシティ・プラス・ネ

よりの「歩きたくなるまち」を

増を背景に市街地を拡大していく従来の都市政策が見直されるようになった。もう一つは「居心地が良く歩きたくなるまち」が形成。都心のオフィス街にある街路で綱引き大会が開催されるなど、豊かな都市空間である道路、街路、公園を多様な人々のつながりや交流の「場」として活用する取り組みが生ま

所有する遊休不動産などの都市アセットを最大限に活用することが必要とした。各地ですべてにさまざまな取り組みが始まっている。国土交通省は2020年6月、コロナ禍の飲食店への支援として、テラス営業などのために路上を利用する基準を緩和する緊急措置を導入。飲食店の二丁目は高く、同年11月には継続して路上利用できる新制度「歩行者利便増進道路」が制定された。大阪市の御堂筋などが指定されている。空き店舗・ビルを改修、活用して迅速な中心街再生を目指す「リノベーションまちづ

くり」も各地で進んでいる。家主に代わり建物の改修や管理・維持、入居者募集などを行う家守会社が中心となり、市民のニーズに応えながら、行政とともに空き物件をまちづくりに取り組んでいる。高石市でも昨年秋、地域の遊休不動産を活用したエリア再生のための経営プランを考える「リノベーションスクール」を開催。今年2月には家守会社が設立された。同市が目指すまちづくりは、国の方向性と一致しており、泉州地域の特性に合わせて展開することで、市民の生活の質は大きく伸びると期待している。

生活の質 向上に期待

た、コロナの感染拡大により、テレワークする人が増えるなど、市民の生活スタイルは変化した。公園を利用する人が多くなり、屋外空間の充実が求められるなど、働き方、暮らし方が多様化するなか、改めてまちづくりについて考える必要が出てきた。政府は都市政策のあり方を検討する有識者会議を開催。今年4月に「歩きたくなるまち」が形成のさらなる進展と、より迅速で機動的なまちづくりが重要だとまとめ、全ての住民がまちづくりのビジョンを共有しながら、市民が

教都市として積極的に留学生を受け入れ、雇用につなげたい。橋爪 沿線ごとに新しいまちづくりを進める段階に入った。官民の連携が重要だ。和田 官民連携では、各担当者が組織にたわらず、個人レベルで信頼関係を築いていくことが大事。前向きに対話を積み重ねるには、フラクショナルな場での対話が必要だ。25年の大阪・関西万博を契機にしたい。山谷 十数年前、ポストに

社会的デザイン」。コロナ禍を受けて、いのちに関わる政策はよりフラクショナルアップされるだろう。カーボンニュートラル温室効果ガス排出実質ゼロやSDGsの時代のまちづくりが求められている。一方で「スマートシティ」がトレンドとなり、未来社会のデザインとして各方向から提案があるはずだ。阪口 高石市東部にある蓮池公園の整備を進めている。近くには和泉貴金塚古墳があり、自然環境・歴史・文化」が一体となったスマートシティとして整備したい。そのためにJR阪和線の高架化を検討している。三浦 危険な踏切の除去や市街地の分断解消など、高架化に伴う効果は大きい。具体的な調査のための国の予算支援もあるので活用してほしい。高石市の特性を考えると、自転車でも行